〔雑　録〕

峰越林道沿線のブナ林の着生植物

鷲 尾 和 行

峰越林道は新潟県東蒲原郡上川村の室谷から，県境の日尊倉山（1262m）と狢ケ森山（1315m）との鞍部を越えて，福島県大沼郡金山町の本名に通じる全長40㎞の林道である。海抜1130mの峠の両側には広大なブナ林が広がる。ブナは胸高直径1m，高さ20～30mの巨木も多く，チシマザサあるいはユキツバキを林床に伴って日本海地域のブナ林の特徴をよく表している。ブナ林は面積が広い上に地形が複雑なため，林分が多様であり，ブナに伴う林内の植物の中には，分布や生態の上で顕著なものも少なくない。その中の一つとして，顕著な生態をもつ着生植物についてここに概要を記述する。（日尊倉山の位置は次ページの地図参照）

着生植物は熱帯，暖帯の森林の樹上に多いものであるが，北方の寒地に進むにつれ，種類も個体数も次第に少なくなる。とりわけ，日本海側の多雪地となると，その冬期のきびしい気候条件のためにより稀な存在となる。特に，高海抜の風衝地では冬季の厳寒と乾燥が激しく，着生植物の生育は極度に制約される。

そのような中で，多雪高海抜の本地域には数種の着生植物が見られ，しかもその生態が特異である。峰越の着生植物の生育する樹林は1000m前後の高海抜の，しかも，風衝の尾根であり，着生植物の生育には極めて困難な環境に見えるが，そこに数種の着生植物が樹幹高くに生育していることは驚異である。このことは，当地域の樹林が広大なのでそれぞれの樹種が協同体としてよく調和し，内部の微気候が安定であること，および，高海抜の尾根筋が年間を通して霧のかることが多いため，林内の湿度が意外に高く保持されることなどによる。

着生植物は生育環境の条件がせまく限られるので，その存在は生育地の自然環境の実態を示すものであり，その相互の関係の解明は植物の生態の探究，ひいては自然保護の面で重要な鍵となる。

この樹林に見られる着生植物の中に，本来，湿性の陰地に生育する植物で，ここ尾根筋の乾いたブナの樹上高くに生育しているもののあることはきわめて興味深く顕著な事実である。

以下，峰越のブナ林の着生植物のうち，分布や生態の上で顕著なものを拾って概説する。

1. ヒメノキシノブ　*Lepisorus onoei* Ching　（ウラボシ科）

深山幽谷や原生林など，湿度の高いところの樹上や岩上に着生するシダ植物である。

峰越では，海抜500m付近で胸高直径70～100㎝の苔むしたブナの巨木の地上3～10mの樹幹に群生している。県内では，妙高山（中村正雄，新潟県天産誌），岩船郡関川村大石東俣（石沢　進），峰越海抜1000m（坪谷富男）に記録がある。

2. ミヤマノキシノブ　*Lepisorus ussuriensis* Ching　var. *distans* Tagawa　（ウラボシ科）

亜高山に生育する着生シダである。峰越では海抜1150m，アカイタヤの大木の地上2mの樹肌に着生しており，風衝で乾き，細く葉を巻く。似かよった生態のシダにホテイシダがあり，乾くと同様に葉を細く巻くので，高い所に着くものは一見ミヤマノキシノブとの区別がむずかしい。

ここは，ブナ林の中にアカイタヤが純林に近い小林分をなしており，ミヤマノキシノブは，その林縁にある風衝の大木に着いている。尾根の東側は福島県の金山町に属し，ブナが皆伐されて，アカイタヤ林は東風をまともにうける。この小林分の植生は次のようである。

高木層　アカイタヤ（3・3）　ツルアジサイとコケ植物が樹上高く着生

低木層　テツカエデ（3・3）　ムシカリ（2・2）　アカイタヤ（1・1）　ミズキ（1・1　林縁）　オオバクロモジ（1・1）　ハイイヌガヤ（+）　ツノハシバミ（+　林縁）　チシマザサ（+）

草本層　チシマザサ（3・3）　ミヤマカンスゲ（3・3）　シラネワラビ（2・2）　テツカエデ（2・2）　ムシカリ（1・1）　ハイイヌガヤ（+）　オオニワトコ（+）　オオサワハコベ（+）　サワフタギ（+）　ヤマトユキザサ（+）　コシアブラ（+）

（着　生）

ミヤマノキシブ（+）　オシャグジデンダ（+）　〔林縁・風衝のアカイタヤの大木の地上2mに両種が共存〕

3. スギラン　*Lycopodiun cryptomerinum* Maxim.　（ヒカゲノカズラ科）

山中の樹上に生育する稀産のシダである。峰越では林道沿い海抜1000m地点のブナの樹幹の地上5mほどのところにオシャグジデンダとともに着生している。

4. オシャグジデンダ　*Polypodium fauriei* Christ　（ウラボシ科）
山地の樹幹や岩上に着生するシダ植物で低山に多いものであるが，峰越のブナ林では稀でなく1150mの高海抜に生育するのは，興味深く，貴重である。

5. チチッパベンケイソウ　*Sodum sordidum* Maxim.　（ベンケイソウ科）
多雪地に多い植物で，通常は岩上に生え，多肉の葉をつけて水分を保持する。峰越ではこれが林道沿いのブナの樹の地上5mに着生しており，生態の上で興味深いことである。

6. クモキリソウ　*Liparis kumokiri* F. Mackawa　（ラン科）
本来は、山地の林下に生え，時には湿地にも生育する多年生のランである。
海抜1100mの尾根のブナの風衝の単木の幹上4mに，西日・西風をうけて，この葉のうすいランが生々と着生しているのは極めて奇異である。近くの林中になお三ケ所，同様の状態の着生が見られるので，林内には，なお多くの着生があるものと思われる。

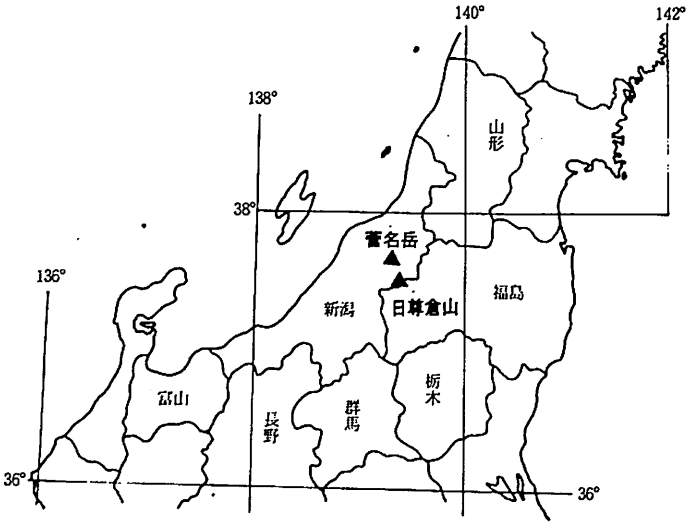
7. ツボスミレ　*Viola verecunda* A. Gray　（スミレ科）
原野や耕地などの水辺の湿気の，多い所に群生する多年生のスミレである。峰越ではクモキリソウと同様に海抜1150mの尾根の風衝地のブナの地上5mに生育する。ブナは樹高約20m，胸高直径1mの巨木で，ツボスミレは風衝の西北西面に着生している。ノキシノブと緑のコケ植物が共存していて湿気を帯び，中でツボスミレはよく育ち，熟果をつけている。
クモキリソウの生態とともに，まことに興味深く，貴重な存在である。

8. ハリギリ　*Kalopanax pictus* Nakai　（ウコギ科）
山地に普通な落葉高木であるが，峰越の海抜460mのブナの老幹の地上10mに着いて枝をひろげ，長さ2mに及んでいる。樹上の樹木ということであるが，密林の中に巨木老幹のブナがあるからである。

9. ヤシャビシャク　*Ribes ambiguum* Maxim.　（ユキノシタ科）
深山の樹上に生えるまれな小低木である。峰越のブナ林には比較的多く，林道沿いのブナの樹幹に着生している。

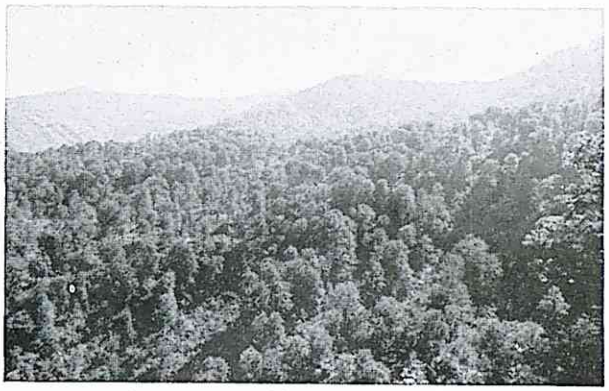
10. サビハナナカマド　*Sorbus americana* Marsh. var. *rufo-ferruginea* Kitamura　（バラ科）
山地に普通な落葉小高木であるが，ここでは海抜1150mの風衝地の樹高20m，胸高直径1mのブナの樹幹の地上5mに着生して，高さ2mに及んでいる。
樹上のハリギリとともに，林内の生態環境の良さを示唆するものである。

峰越のブナ林内で観察した着生植物9種をあげたが，ブナ林は広大なので，さらに多くの種や特殊な生態が観察できるものと思われ，今後の調査に俟ちたい。



第1図

東蒲原郡上川村日尊倉山の着生植物

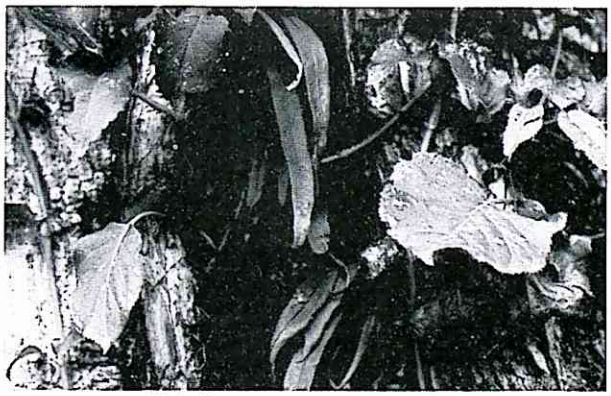


密生するブナ林（加藤忠一撮影）

着生植物の多い尾根のブナ林

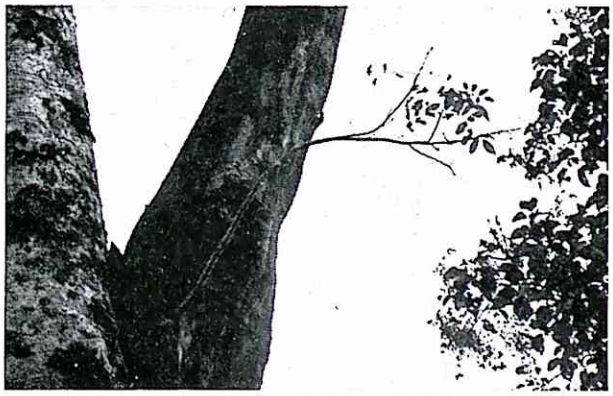
ブナ樹上のヒメノキシノブ500m　地上3～10mにわたる〔'86.10.10〕

ブナに樹上の湿生植物ツボスミレ　地上5m，ノキシノブと蘚類が随伴1440m〔'86.10.10〕

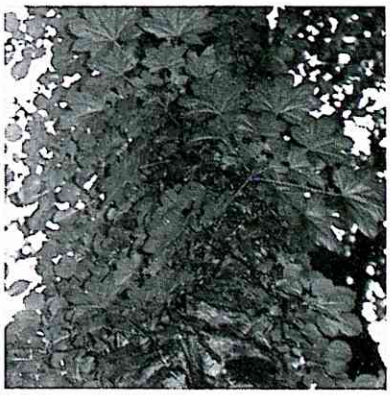


アカイタヤに着生するミヤマノキシノブ1150m（ツルアジサイ伴生）〔'85. 8.20〕

アカイタヤの幹に群生するオシャクジデンダ〔'85. 8.20〕



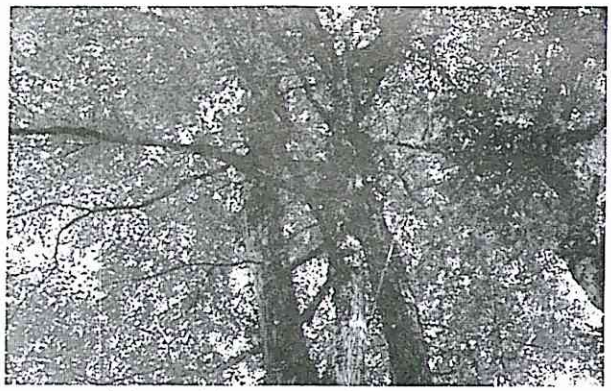
ブナ樹上のサビハナナカマド1140 m〔'86.10.10〕



ブナ樹上のハリギリ460m（ツルアジサイ伴生）〔'86. 7. 5〕

五泉市菅名岳のカツラを含む樹林

落葉のカツラ樹林〔'86.11. 7〕



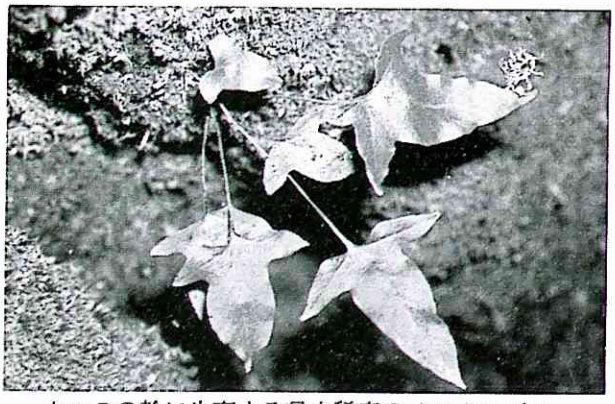
大きく広がるカツラの樹冠〔'86.10. 7〕

渓谷沿いに広がるカツラ樹林：落葉前（左）と落葉後（右）

〔'86.10. 7〕（平慎三撮影）　　〔'86.11. 7〕

カツラの巨木　周囲2m以上（株立ちのものが多い）

〔'86.11. 7〕　　〔'86.11. 7〕



カツラの幹に生育する県内稀産のイワオモダカ

〔'86.11. 7〕

林床に生育する稀産のイワヤシダ

〔'86.10. 7〕